

平成21年 6月24日現在

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19720013  
 研究課題名 (和文) 江戸時代初期における一切経蒐集事業の研究—袋中による一切経蒐集を中心に—  
 研究課題名 (英文) Collecting the Buddhist Canon in the Early Edo Period: Focusing on Taichu  
 研究代表者  
 三宅 徹誠 (MIYAKE TETSUJO)  
 国際仏教学大学院大学・附置国際仏教学研究so・研究員  
 研究者番号：80449363

## 研究成果の概要：

浄土宗僧侶袋中 (1552-1639) の蒐集した一切経は、収蔵されていた奈良・念仏寺から流出し、現在国内外に散存している。それらの調査を行い、現存している経典類の内、約4割の調査を終えた。その結果、基本的には装丁が折本であるといった袋中蒐集一切経の特徴や、そこに押された奥書・蔵書印などから、奈良・金峯山寺や京都・浄瑠璃寺などから取得したといった古写経の来歴などが明らかとなった。袋中は、比較的身近な奈良や京都で蒐集活動を行っていたのである。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,700,000	0	1,700,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,700,000	300,000	3,000,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 印度哲学・仏教学

キーワード：袋中、一切経蒐集、古写経、南都善光院、金峯山寺一切経

## 1. 研究開始当初の背景

江戸時代前期の一切経に関する事業には、天海 (1536-1643) や鉄眼 (1630-1682) による一切経の開板などがある。それに関連して、了翁 (1630-1707) による天海版の購入と経蔵の建立、及び黄檗版一切経の寄与などがある。しかし、それらは元版や明版の日本における復刻である。それとは別に、奈良平安古写経など貴重な経典を蒐集したのが、浄土宗の学僧、袋中 (たいちゅう、1552-1639) である。

袋中は、現在の奈良市にある念仏寺に経蔵を建立し、そこに蒐集した一切経を納めたが、現在、その経蔵中の一切経は、ほぼ全て散逸し、数点を残すのみである。よって、袋中が如何なる経典を蒐集したのかなどについて解明することが、現在非常に困難な状況となっている。そこで、国内外に散存している袋中蒐集一切経を調査し、その全体像を明らかにしようと思い立った。

浄土宗僧侶である養鷗徹定 (うがいてつじょう、1814-1891) が、江戸末期に念仏寺経

蔵にあった一切経の一部を入手したことから、彼の研究において触れられることはあったが、袋中の一切経蒐集事業を中心した研究はなかった。そのため、本研究の意義は大きいと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、天海や鉄眼の一切経開版以前に、袋中という学僧が一切経蒐集事業に着手し、その中で奈良平安古写経の価値に着目して、単に蒐集するだけでなく、大部分に目を通し訓点を付し解説していたという偉大な業績に光を当てるといふ点である。

具体的には、袋中蒐集一切経の目録作成をしつつ、蒐集された古写経が如何なるものであったのかを明らかにすることである。つまり、そこに含まれていた古写経の来歴・内容を精査する。それにより、袋中の古写経に対する知識や審美眼が明らかとなる。また、袋中蒐集一切経の全体像が明らかになれば、当時の古写経の分布状況もわかることになる。古写経の内容については、本文を精査することで、漢訳テキストとしての価値を再確認できる。

## 3. 研究の方法

先ず、図書館などの目録を調べ袋中蒐集一切経と思われるものを拾い上げ、現存袋中蒐集一切経の一覧表を作成する。そして、それらをもとに国内外の各機関所蔵の袋中蒐集一切経を調査して、その内容を精査する。各経典の分量を計り、撮影可能なものについては撮影し、データを蓄積する。それをもとに調査済みの袋中蒐集一切経目録を作成する。

また、古写経の内容を精査し、その価値を再確認する。大陸の版本などと本文を比較し、その系統などを解明する。奈良平安古写経には、高麗版一切経などの版本一切経より原典に近いものがあり、敦煌写経に勝るとも劣らない価値がある。袋中蒐集一切経は、奈良平安古写経を含むものであるため、内容の解明は必須である。

## 4. 研究成果

### (1) 袋中蒐集一切経調査結果

袋中蒐集一切経に関して、現存経典類の調査、及びそれらの目録の作成を行った。

海外では、イギリス・大英図書館、フランス・フランス国立図書館、アメリカ・カリフォルニア大学パークレー校東アジア図書館、中国・中国国家図書館、台湾・国家図書館及び国立中央図書館台湾分館において、計 35 本の袋中蒐集一切経、及び関連文献の調査を行った。国内では、宮城・東北大学附属図書館、東京・お茶の水図書館成實堂文庫、東京・大東急記念文庫、大阪・四天王寺大学図書館恩頼堂文庫、京都・京都府立総合資料館、奈

良・阪本龍門文庫、奈良・念仏寺などに蔵される計 39 本の袋中蒐集一切経の調査を終えることができた。二年間の調査によって、現在目録等で確認できる現存袋中蒐集一切経の内、約 4 割の調査を終えたことになる。

調査済みの現存袋中蒐集一切経及び関連文献は以下の通りである。

- ・大英図書館  
大周刊定衆経目録 卷九
- ・フランス国立図書館  
魔嬈乱経 一卷
- ・カリフォルニア大学パークレー校東アジア図書館  
仏母出生三法蔵般若波羅蜜多経 卷二十  
仏母出生三法蔵般若波羅蜜多経 卷二十五  
大方広仏華嚴経（実又難陀訳） 卷三十一  
大宝積経 卷五十七  
波斯匿王太后崩塵土全身経 一卷  
須摩提女経 一卷  
縁生初勝分法本経 卷上  
大方広仏華嚴経（実又難陀訳） 卷六十八  
阿毘達磨大毘婆沙論 卷一百五十六  
中阿含経 卷三  
五百問事経 一卷  
大般若波羅蜜多経 卷四百七十三  
大般若波羅蜜多経 卷五百四十三  
大方広仏華嚴経（実又難陀訳） 卷四十五  
大方広仏華嚴経（実又難陀訳） 卷七十一  
大方広仏華嚴経（実又難陀訳） 卷七十二
- ・中国国家図書館  
仏説阿舎須摩提女経 一卷  
弥勒菩薩所問本願経 一卷  
正法念処経 卷二  
正法念処経 卷四  
正法念処経 卷七十  
大集経月蔵分 卷二  
堅固女経 一卷  
大乘密蔵経 卷上  
金剛頂瑜伽他化自在天理趣会普賢修行念誦儀軌 一卷  
普遍光明清浄熾盛如意宝印心無能勝大明王随求陀羅尼経 卷上  
普遍光明清浄熾盛如意宝印心無能勝大明王随求陀羅尼経 卷下  
底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法 一卷
- ・国家図書館（台湾）  
羅摩伽経 卷三  
羅摩伽経 卷四  
阿毘曇毘婆沙論 卷十七
- ・国立中央図書館台湾分館  
衆許摩訶帝経 卷八  
蘇悉地羯羅経 卷中  
蘇悉地羯羅経 卷下
- ・東北大学附属図書館

- 幻土仁賢經 一卷
- ・お茶の水図書館成實堂文庫
    - 内蔵百宝經 一卷
    - 菩薩修業經 一卷
    - 越難經 一卷
    - 方等要慧經 一卷
    - 妙法蓮華經優婆提舍 卷上
  - ・大東急記念文庫
    - 大方等大集經 卷四
    - 五母子經 一卷
    - 智炬陀羅尼經 一卷
    - 説妙法決定罪障經 一卷
    - 別訳雜阿含經 卷二十
    - 大般涅槃經 卷十四
    - 大方広仏華嚴經（仏陀跋陀羅訳） 卷五十八
    - 出曜經 卷八
    - 法苑珠林 卷十三
    - 法苑珠林 卷三十九
  - ・四天王寺大学図書館恩頼堂文庫
    - 仏本行集經 卷五十
    - 顕無辺仏土功德經 一卷
  - ・京都府立総合資料館
    - 仏母出生三法蔵般若波羅蜜多經 卷二十一
    - 大宝積經 卷八十七
    - 仏説大乘不思議神通境界經 卷中
    - 仏説一切如来安像三昧儀軌經 一卷
    - 弥勒菩薩所問經論 卷五
  - ・阪本龍門文庫
    - 仏本行集經 卷五十三
  - ・念仏寺
    - 過去現在因果經 卷一
    - 過去現在因果經 卷二
    - 過去現在因果經 卷三
    - 過去現在因果經 卷四
    - 過去現在因果經 卷五
    - 如幻三昧經 卷一
    - 如幻三昧經 卷二
    - 如幻三昧經 卷三
    - 如幻三昧經 卷四
    - 大般若波羅蜜多經 卷二百七十
    - 大聖文殊師利菩薩仏刹功德莊嚴經 卷下

## (2) 袋中蒐集一切經の特徴

調査の結果、明らかとなった袋中蒐集一切經の特徴は以下のようなものである。

- ①「一切經南都善光院」の朱印が押されている。
- ②袋中が、内題の下に墨書でその經典の内容に関する説明を記している。
- ③經文中に、袋中の校正墨書がある。
- ④仏船という僧侶の墨書がある。

以上の特徴の内、一つでも有しておれば袋中蒐集一切經と言える。また、装丁は折本が基本であり、例外的に時折卷子本も見られる。虫損により全体にわたって裏打ちを施して

ある經典が多い。これは念仏寺經蔵に安置されていた時に、あまり環境が良くなかったためではないかと考えられる。そのため、江戸中期に一度補修された事実がある。その時の援助者の名前が、巻末に墨書で記載されている場合があるが、それも袋中蒐集一切經の特徴の一つである。

袋中蒐集一切經の中、写本には平安後期のものが多いが、奈良朝写經や中国の北魏期の写經など貴重な文献も含んでいた。版本には、所謂の宋元明版や鎌倉期に日本で開版されたものがあつた。

## (3) 袋中蒐集一切經の来歴

調査により、各經典の蔵書印や奥書等から、袋中が何処から經典を蒐集したのか、その来歴が少しずつ解明されてきた。先行研究や古文書により解明していた分も含め、現段階で明らかとなった袋中の主な一切經入手先は以下の通りである。

- ①京都・浄瑠璃寺
- ②京都・笠置寺
- ③京都・海住山寺
- ④京都・円覚寺
- ⑤奈良・金峯山寺
- ⑥奈良・大和国山辺郡下深川莊社頭御經
- ⑦奈良・太官大寺
- ⑧奈良・中臣寺

④⑦⑧は当時既に存在しない寺院であったので、どこかに流出していたのを取得したのであろう。以上のように、袋中蒐集一切經の入手先を見ると、念仏寺の位置する奈良周辺であることがわかった。江戸初期に山城国中南部から大和国に存在していた入手可能な古写經を袋中は蒐集していたのである。

## (4) 蔵書印に関する新たな知見

調査した袋中蒐集一切經の中には、紙背に「西山經蔵」と黒印のあるものが数本あつた。「西山經蔵」について、養鷗徹定は『古經搜索録』の中で「寛喜二年、三鉢寺證空、建宝塔、度聖經、供養千僧、薦於慈鎮和尚千日忌辰。此西山經蔵印、蓋此時所捺也。」と解説している。つまり、寛喜二年（1230）、証空が、慈鎮の千日忌辰において用いたものとしている。中国国家図書館所蔵『普遍光明清淨熾盛如意宝印心無能勝大明王随求陀羅尼經』巻下紙背に「西山經蔵」の印が押されていたが、その經典には「承安三年癸巳五月五日／一校了」と奥書があつた。承安三年（1173）は、寛喜二年（1230）の約60年前であり、大東急記念文庫所蔵『智炬陀羅尼經』などの元浄瑠璃寺一切經に記された奥書の年号である承安四年と一年違いである。浄瑠璃寺は「西小田原山浄瑠璃寺」といい、かつて「西小田原寺」などと呼ばれていた。『浄瑠璃寺流記事』には、東小田原にあつた随願寺を「東

山」と記し、浄瑠璃寺と合わせて「東西両山」とした記述が見える。浄瑠璃寺が自身を「西山」とし、「西山経蔵」という印を押したという仮説を立てられよう。まだ検討段階ではあるが、養鷗徹定の解説が誤りであることは明らかとなった。

また、東北大学附属図書館所蔵『幻土仁賢経』には、巻末に金峯山寺一切経を完成させたとされる静巖の奥書があり、紙背に黒印が押されてあった。その黒印は、『大谷大学図書館所蔵貴重書善本図録』が金峯山寺一切経の印と比定する宝塔黒印とは異なるものであった。つまり、金峯山寺一切経には二種類の蔵書印が存在したということになる。「西山経蔵」の一件と同じく、更に検討を要する点である。

#### (5) 本研究の位置付けとインパクト

袋中の伝記である『袋中上人伝』には、浄瑠璃寺より一切経を購入したこと、蒐集した経典の中には紺紙金泥の経論が多かったことしか書かれていない。また念仏寺所蔵文書からは宋元明版が含まれていることなどがわかる程度である。

以上のように未だあまり詳細が明らかになっていない袋中蒐集一切経に的を絞り、集中的に調査し、その特徴や来歴を明らかにしようとする試みは意義がある。奥書・蔵書印などからの古写経の来歴の検討など、袋中の一切経蒐集事業を解明する端緒となったはずである。

また、現在、袋中蒐集一切経は国内外に散存した状況である。奈良から日本全国、そして世界への流出過程の検討は、当時の社会情勢をも明らかにすることができ、歴史的にも有益な研究であろう。

#### (6) 今後の展望

二年間で、現存が確認できる袋中蒐集一切経の内、約4割の調査を終えた。調査分を整理し袋中蒐集一切経のデータ作成を行った。未調査分の経典全ての調査と分析、更に一切経蒐集が袋中の生涯に与えた影響などに関して今後研究を進めたい。

前述したように、金峯山寺一切経には二種類の蔵書印の存在がうかがわれる。また「西山経蔵」印についても未だ不明な点がある。今後、それらの事実解明を目指す必要がある。

袋中には多くの著作があるが、その中に『仏本行略経』がある。本書は、闍那崛多訳『仏本行集経』全六十巻について解説したものである。調査済みの経典の中に『仏本行集経』が二本あるので、その中に記された袋中の墨書などを参考にしながら、袋中の経典理解を考察するのも今後の課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 三宅徹誠「袋中蒐集一切経の来歴と現況」『国際仏教学大学院大学研究紀要』第12号、27-56頁、2008年3月、査読無。  
<http://ci.nii.ac.jp/lognavi?name=nels&lang=jp&type=pdf&id=ART000888274>

〔学会発表〕(計1件)

- ① 三宅徹誠「袋中蒐集の古写経について」平成20年度浄土宗総合学術大会、2008年9月9日、佛教大学。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

三宅 徹誠 (MIYAKE TETSUJO)

国際仏教学大学院大学・附置国際仏教学研究  
所・研究員

研究者番号：80449363